別海町立野付小学校　学校便り

三角帆

◆発行責任者　校長　青坂信司

◆発　行　日　平成２４年１０月４日

平成２４年度学校テーマ「学び続ける学校」　第１２号

※１０月１４日が学芸会です。多くの皆様のご参観をお待ちしております。

「みんな、いい顔していたよ！」

◆先日あった収穫祭。その折に学校評議員でもある永野孝浩さんが、子ども達のためにご自分の牧場で育てた和牛のハンバーグを提供してくださいました。子ども達が御礼状を差し上げたところ、長文の返信をいただきました。

【子ども達の礼状に関する返信】

皆さん、おはようございます。そしてありがとう。

先日の学校農園収穫祭に参加させていただき、私自身もたくさん勉強させていただきました。また、みなさんから心あたたまる感謝の言葉「ありがとう」がいっぱい詰まったお手紙をたくさんいただきとてもうれしいです。ものを作る私たちにとって、言葉や気持ちがとっても大切だと更に実感しています。仕事に対する励みにもなり、楽しみながら努力していきますね。

人の出会いと出会いがつながって、平成地区のお父さんたちの協力で畑を耕していただき、人生の先輩である戸田さんには作付指導を受けながら、芋や苗を植え付け、草取りとつらいことも、みんなで協力してこのように収穫できて、ありがたくうれしいことだと思います。

みんないい顔していたよー！

病気の人、障がいのあるなしに関わらず、この笑顔は自分も含めて、全ての人に支えられていますよね。ものの大切さ、命の大切さを少し知ったみんなは、無限の可能性や能力を持っています。学びながら、失敗を恐れず、たくましく前へと進み、相手の心を理解できる人であれば、いじめもなく、みんなが学校生活を楽しめると思っています。

みなさん一人ひとりが、これからいろいろな体験をたくさんしながら、この地域尾岱沼に、別海町に、そしてこの社会に必要とされていることを自覚して成長してくれることを信じて、私たちからの感謝を込めての皆さんへのお礼のお便りとします。

ありがとう！！

ながの　たかひろ　さとみ

北海道新聞さん

で21日、春先から育ててきたジャガイモを全校で味わう収穫祭が行ら地元の食材を味わった。同校では1～6年生

労を学んできた。

この日は朝から班ごとにカレーやクリームシチュー、肉じゃがなどジャガイモを使った料理に挑戦。食事の前には、近くで黒毛和牛を肥育、販売している永野孝浩さん(52)が「生産者は必死においしいものを作っている。大人になった時、自分のふるさとの食材は豊かだったと思い出してほしい」と語りかけた。

6年生の安達浩紀君(2)は「自分たちで育

丹精込めた野菜たっぷり

釧路新聞さん

野付小で収穫祭

児童が秋の恵み堪能

愛情込めて作った野菜のカレーと、地元産の肉を使ったハンバーグを頬張る子どもたち

【別海】野付小学校（青坂信司校長、生徒数101人）は21日、収穫祭を行い、児童らは、同校敷地内で丹精込めて育てた野菜をふんだんに使った料理を味わった。

この日は午前9時ごろから、6班に分かれた児童が、収穫したジャガイモやニンジンなどの下ごしらえを開始。各班ごとにカレーやシチュー、肉じゃがなどメニューを決め、慣れない包丁に苦戦する下級生を、上級生がサポートするなどして協力しあい、料理が完成した。

今回の収穫祭には、同校の評議員を務める永野孝浩さんが、自身が営む牧場「ふぁーむながの」で生産された「野付ながの和牛」のハンバーグ60個を無償提供。永野さんや、畑作りに協力した地域の人たちを招き、児童会長の6年生伊勢航君が代表して感謝の気持ちを伝えたのち、みんなで元気よく「いただきます」。子どもたちは大きな口で頬張り「おいしい！」と笑顔を浮かべ、秋の恵みとハンバーグを堪能。4年生の蛇山莉胡さんは「ハンバーグは柔らかくておいしかった」と満足げに話した。

永野さんは「大変に育てた牛の肉を味わってもらい、漁業が盛んな尾岱沼でも肉牛を生産していることや、命を頂くことへの感謝の気持ちを知ってほしい」と語り、「来年以降も続けていきたい」と話していた。（原田未央）

◆収穫祭の様子は、釧路新聞や北海道新聞で紹介されました。記事の一部を紹介します。印刷の関係で読みづらいところがあると思います。ご容赦ください。